

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 21 年度	学 位 名	修 士 (ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名 守屋 翔平
指導教員氏名 住田 潮			
論文題目 階層間ギャップを巡る組織症候群診断アルゴリズムの開発			
論文概要 <p>昨今、企業の不祥事が社会問題化してきており、コンプライアンス経営の言葉が叫ばれて久しいながらも、企業不祥事の報道は後を絶たない。企業不祥事は、その企業に直接関わっている人々だけでなく、株主、業界、社会全体といった様々なステークホルダーに影響を与え、早急に対応し除外しなければ業界全体、社会全体の信頼を失墜させ甚大なダメージを被る可能性が高い。</p> <p>不祥事はもちろん、経営状態の悪化を招く原因を早期に発見することは、企業の継続的な発展に大きく貢献するものと考えられる。そこで我々は、一般的に企業診断に使われている財務諸表等の外在指標からではない企業診断システム OMAC の構築を3年前から共同研究企業と行ってきた。OMAC は、組織の健康状態を診断する言わば組織版「人間ドック」である。</p> <p>本研究は、この組織診断 OMAC をさらに発展させることを目的とする。従来の症候群診断では発見できなかった、管理者層と従業員層や、経理部門と営業部門などといった、組織内の階層間に潜む不祥事に繋がるような病巣を発見することである。この研究は過去に尾崎(2007)が「階層間ギャップ分析」として提唱しているが、Management 層と Staff 層に対し同じ設問を投げかける(共通意識)設問のみを利用した方法論の提示に留まっている。そこで、本研究では、尾崎の提示した方法論を今一度見直し、階層間における互いの認識に焦点を当てた(相互評価)設問を用いることで、より一層階層間のギャップを明らかにすることができた。また、尾崎の方法論を基に、階層間に潜む組織症候群を構築し、体系化することで問題の特定が可能になり、その様々な症状に対して、原因治療法を提案した。</p>			
審査日 平成 22 年 2 月 3 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授	博士(工学)	イリチュ 美佳
副査	筑波大学 教授	Ph. D. in Management, 理学博士	住田 潮
副査	筑波大学 准教授	Ph. D. in Organizational Behavior	渡辺 真一郎